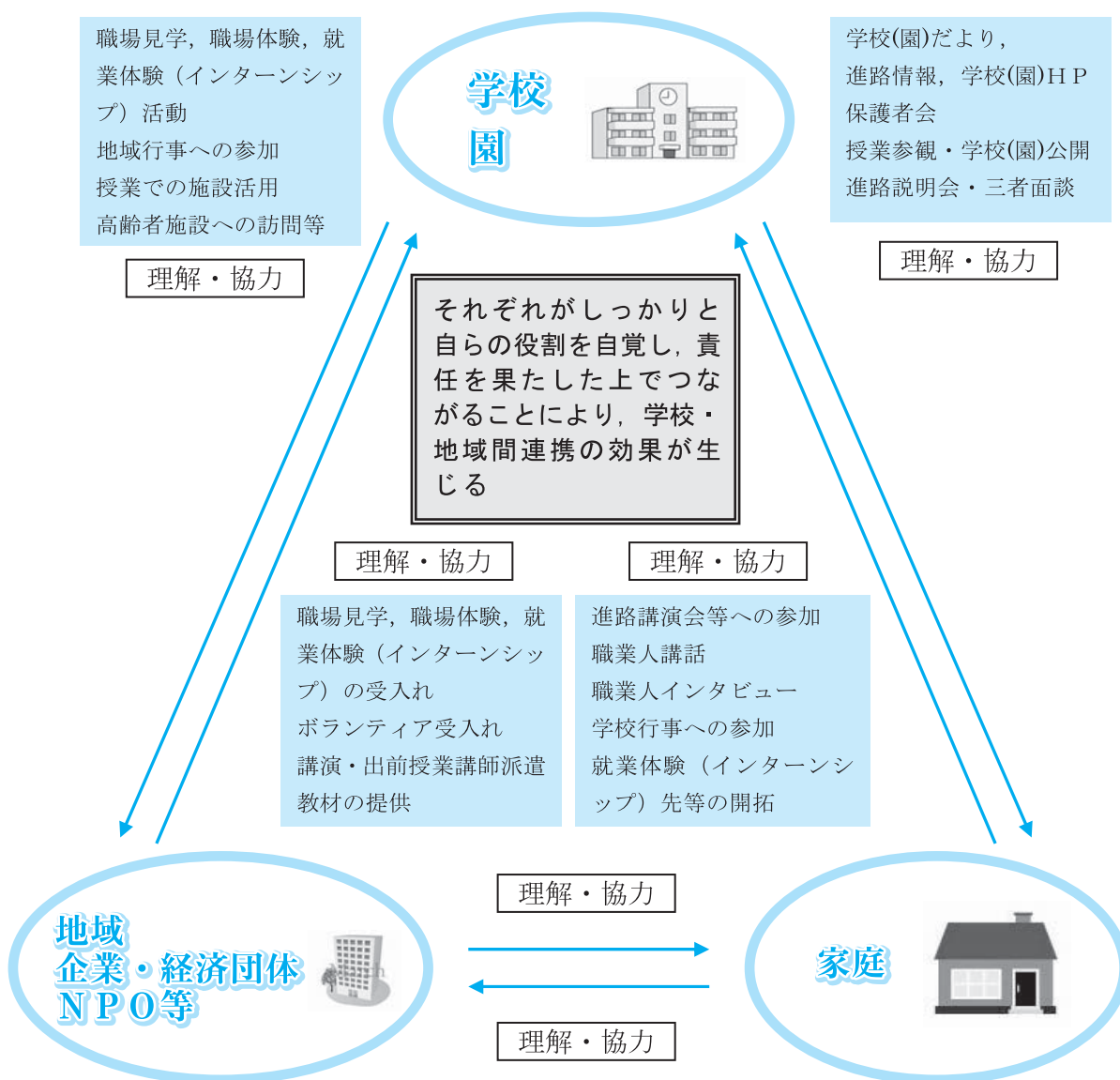


3 学校・地域間連携（横の連携）

キャリア教育の推進においては、子供たちに実感を持って、現在の学びがどのように生活や社会と結び付いているのかについて考えさせ、体得させる必要があります。そして、その過程においては、子供たちの様々な経験や人との触れ合いなどが総合的にかかわってきます。

学校のキャリア教育に対する理解を深めるための情報提供や、地域が持つ教育的資源の活用により、学校、家庭、地域・企業・経済団体・NPO等が積極的に連携していくことが大切です。

（１）学校、家庭、地域・企業・経済団体・NPO等の連携の構図



※〈地域・企業・経済団体・NPO等〉

自治会，地域における企業・経済団体，法人会，NPO法人，福祉施設ボランティア団体，国際交流財団，青少年センター，図書館・博物館，地域若者サポートステーション，ハローワーク，労働相談センター等

（２）発達段階において家庭、地域・企業・経済団体・ＮＰＯ等に期待される役割

子供たちの人格形成やキャリア発達には、家庭や地域・企業・経済団体等におけるかかわりが大きく影響してきます。

発達段階	家庭に期待される役割	地域・企業・経済団体・ＮＰＯ等に期待される役割
幼稚園 幼稚園部 	家庭での触れ合いや豊かな体験を通して、身近な大人に対する信頼や自ら環境にかかわろうとする自発性を養う 方策：基本的生活習慣の育成 幼稚園への協力 行事への参加 家庭での手伝い	地域の人々とのかかわりを通して、地域の人々を身近に感じ、自分の住んでいる地域に親しみを持たせる 方策：地域の行事への参加 地域の人々との触れ合い
小学校 小学部 	“将来の夢”についての家庭での会話や家事の手伝い等を通して、将来の夢や希望を育むとともに、集団生活に参加しようとする意欲・態度を養う 方策：基本的生活習慣の育成・確立 学校への協力、行事への参加 家庭での手伝い	地域の行事や職場見学等、学校を中心とする地域とのかかわりを通して、自分と地域とのつながりについて理解を得させる 方策：職場見学の受入れ 自然体験 講演・出前授業
中学校 中学部 	家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人の職業等の理解を通して、社会の一員としての自覚を高めるとともに、将来の生き方や進路への希望を育む 方策：将来設計や希望進路へのアドバイス 学校への協力 行事への参加 家庭での役割分担	職場体験や地域の行事への参加等を通して、地域の一員としての自覚を得させるとともに、将来の生き方、進路を考えさせる 方策：職場体験の受入れ 地域ボランティア体験 講演・出前授業 上級学校への訪問・体験
高等学校 高等部 	社会の一員としての自覚と参画、保護者や身近な大人の生き方（キャリア）の理解を通して、将来の生き方と当面する進路の明確化とその実現への努力を援助する 方策：将来設計や希望進路へのアドバイスや話し合い 学校への協力 行事への参加 家庭での役割分担	就業体験（インターンシップ）や地域の行事への責任ある参加等、異年齢の人々との講習や社会参画の機会を通して、地域の一員としての自覚を高めさせるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を養わせる 方策：就業体験（インターンシップ）受入れ 地域ボランティア活動 講演・出前授業 上級学校との連携

① 家庭に期待される役割と連携の在り方

家庭は、子供の発達・成長を支え、自立を促す重要な場です。子供と働くことや将来の進路について話し合ったりすることを通して、子供たちは多くのことを学ぶことができることから、キャリア教育を進めるに当たり、家庭は重要な役割を果たしています。平成24年度に本県で行われた県民アンケートにおいても、子供たちが将来の仕事を考えたいきっかけとして、家族との会話が最も多く挙げられています。

また家庭教育の在り方や、働くことに対する保護者の考え方や態度は、子供たちの人格形成やキャリア発達に大きな影響を与えるものであり、子供たちは家庭における人間関係や生活体験を通して、将来職業人・社会人として必要とされる挨拶やマナー等の社会性を身に付けることができるとともに、「生き方」の基礎を培っていきます。

学校においては、このような家庭の役割を認識し、キャリア教育の方針や進路や職業にかかわる情報、産業構造や進路をめぐる環境の変化等の情報を提供し、子供への働きかけについて共通理解を図ることが必要です。

② 地域・企業・経済団体・NPO等に期待される役割と連携の在り方

学校を取り巻く地域には、青少年センターや図書館・博物館等の社会教育施設や地域で活躍するボランティア団体、NPO法人、就労支援機関や様々な教育資源があります。これらの教育資源の中には社会人・職業人としての知識や経験が豊富な方が数多くおり、学校の様々な教育活動に参画していただくことによって子供たちに仕事や職業を認識させることができるとともに、子供たちが地域の行事に参加したり、企業等へ訪問したりすることで、多くの方々と触れ合い、地域への愛着の気持ちが生まれることが期待されます。

国立教育政策研究所が平成25年9月に公表した「平成24年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果（概要）」によると、本県においては、公立中学校における職場体験実施率は、98.8%で高い実施率となっています。

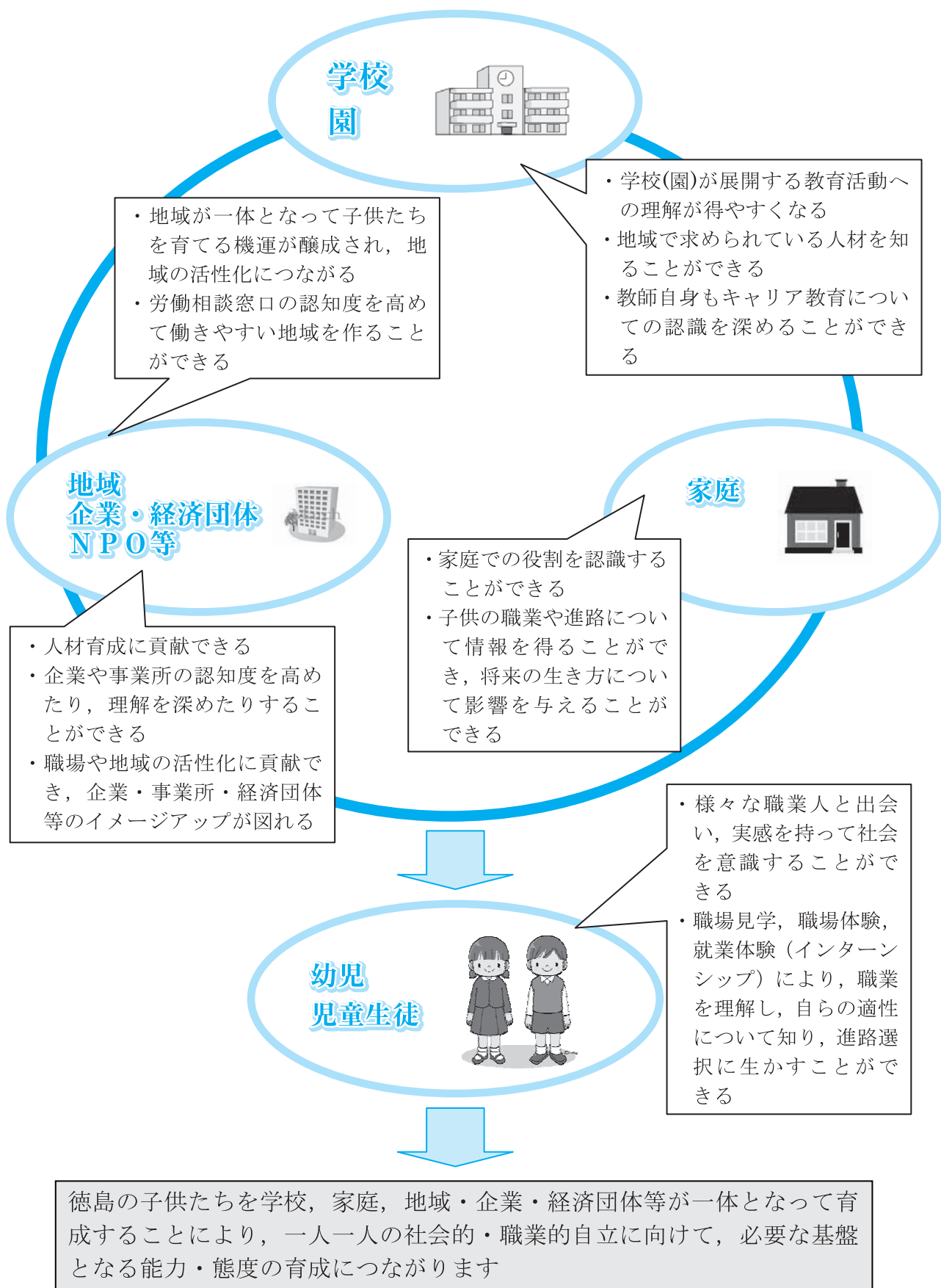
公立高等学校における就業体験（インターンシップ）実施状況については、参加人数は少ないという課題がありますが、学校単位で実施している割合は82.9%となっており、これらの結果からも、本県においては多くの学校が地域の企業等において職場体験や就業体験（インターンシップ）等の体験的な学習活動を取り入れています。

職場体験や就業体験（インターンシップ）等の体験的な学習活動では、現実に職場における大人とのコミュニケーションを通して、職業についての理解を深めたり、自己の適性や具体的な進路について考えたりすることができるとともに、社会で求められる挨拶やマナー等について学ぶことにつながり、学校におけるキャリア教育を推進する上で、地域や企業等との連携は、極めて重要となります。

また、連携の在り方としては、企業・経済団体等の方々を学校の教育活動の中に、「講演・出前授業」の講師として招く方法があります。

専門的な知識や技能を有する多様な職場や立場の方々と子供たちが直接接することにより、学校での学びが仕事の現場で具体的にどのように生かされるのか、働くことの意義や喜びを実感を伴って意識することができ、子供たちの夢を育み、学習意欲を高めるきっかけづくりとなることが期待されています。

(3) 連携の効果



(4) 本県における学校のキャリア教育を支援する取組

本県では、企業・経済団体等からの「講演・出前授業」に関するキャリア教育支援の情報を全ての学校が直接閲覧することができるデータベースシステムを構築しています。

学校で閲覧できる「講演・出前授業」に関するデータを徳島県立総合教育センターのホームページに掲載しています。

「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」

URL <http://career-db.tokushima-ec.ed.jp/>

(参考)「講演・出前授業」において期待される内容例

分野	項目
「かかわる力」 社会人として必要なこと (人間関係形成・社会形成能力の育成)	「働くこと」の意義・大切さ
	これからの社会で生きていくために必要な力とは
	学校での勉強がなぜ大切なのか
	お金の流れについて
	産業紹介
	時代や社会の変化, 世界の動き, 日本の役割
「みつめる力」 向上心や夢を持つこと (自己理解・自己管理能力の育成)	夢を持つことの大切さ
	企業経営者からのメッセージ
「すすむ力」 仕事をする上で必要となること (課題対応能力の育成)	各企業の社員による体験談
	ビジネスマナー講習会
「えがく力」 仕事を知ること (キャリアプランニング能力の育成)	各企業での業務内容及び紹介
	職業の選択について
	「ものづくり」などの実演・体験的な学習活動

4 体験的な学習活動の充実

体験的な学習活動の意義は、社会における様々な人や、自然や環境、自分自身を取り巻く様々な事象と触れ合うことによって社会をより実感することができ、子供たちの豊かな人間性や社会性を育むことができるとともに、向上心や学習意欲が喚起され、まさに「生きる力」の育成に資するものです。

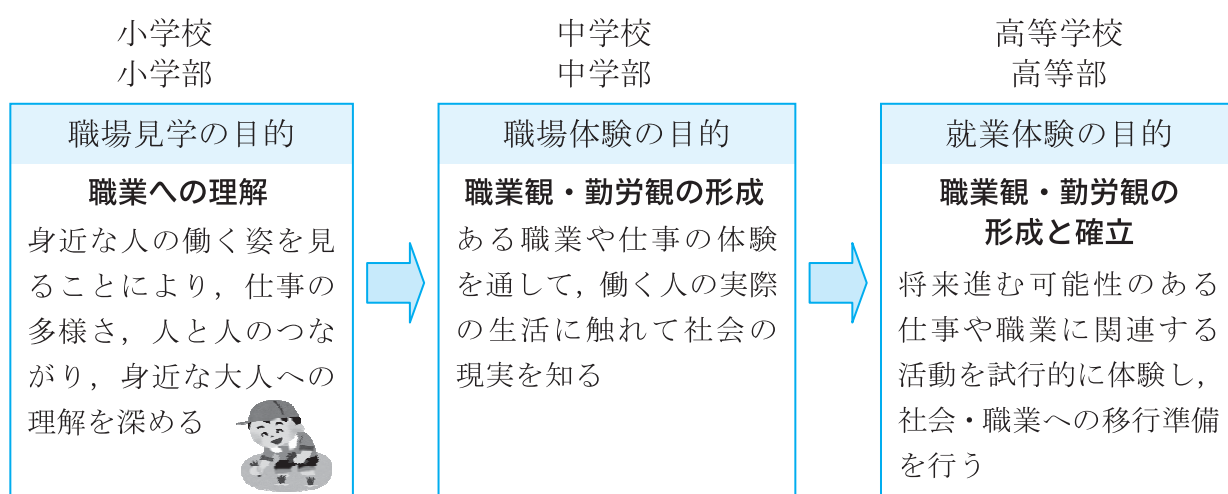
平成23年1月の中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）では、「キャリア教育の実施に当たっては、社会や職業にかかわる様々な現場における体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子供・若者に自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を得させることが重要である」と明記されており、体験的な学習活動がキャリア教育を推進する上で極めて重要な取組であることが言われています。

学習指導要領においても、小学校では自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動、中学校では自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動、高等学校では、自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動を推進することが示されています。

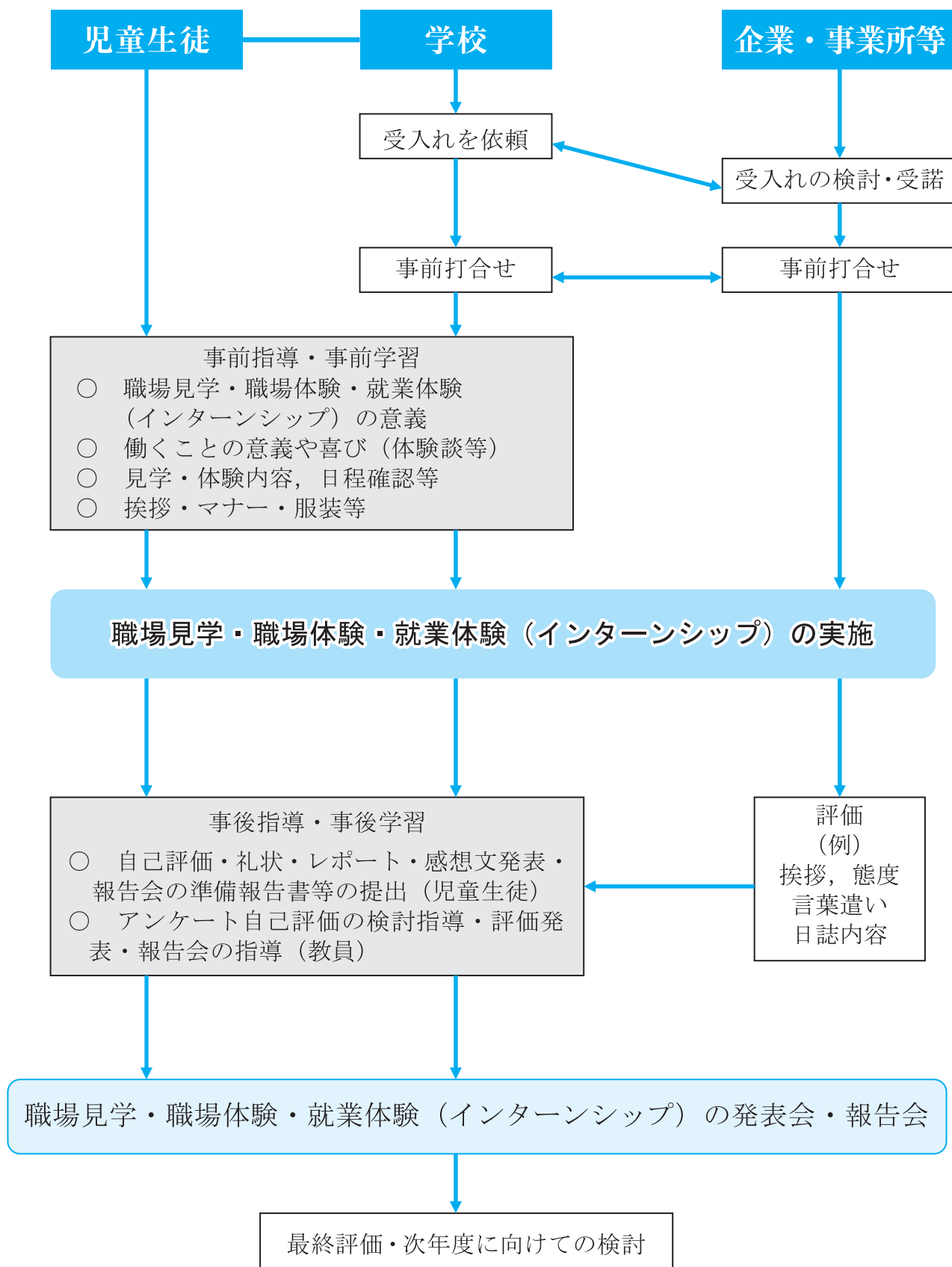
キャリア教育における体験的な学習活動の効果

- 働くことの意義や喜びを知り、勤労観や職業観が醸成される
- 学ぶことの意義や重要性を理解し、学びへの興味・関心が高まる
- 社会人としての基本的な礼儀、挨拶、マナー等が身に付く
- 自分の個性や特性を知り、主体的に今後の生き方や進路選択について考える
- 様々な人とのかかわりの中で、望ましい人間関係形成力の育成につながる
- 地域の人とのかかわりを通しての地域の再発見や地域への愛着につながる

キャリア教育の視点からは、特に「職場や就業にかかわる体験活動」が重要な役割を果たすものであり、職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）によって現在の学習と実社会との関係についての理解が深まり、学習意欲全般の向上につながると考えられます。発達段階において学ぶことは違いますが、どの段階においても**体験を通して学ぶ**ということは大切です。



(1) 職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）の流れ（例）



平成25年3月に本県で実施した「キャリア教育に関するアンケート」において、「学校においてキャリア教育を適切に行っていく上で、今後重要になると思われることについて」という項目では、小学校・中学校・高等学校において「キャリア教育における体験活動を実施すること」、「キャリア教育にかかわる体験活動の事前・事後指導の重視」、「キャリア教育に関する教員の理解と協力を得ること」が上位を占めており、学校全体における体験活動の推進や体験活動における事前指導と事後指導の必要性が挙げられています。

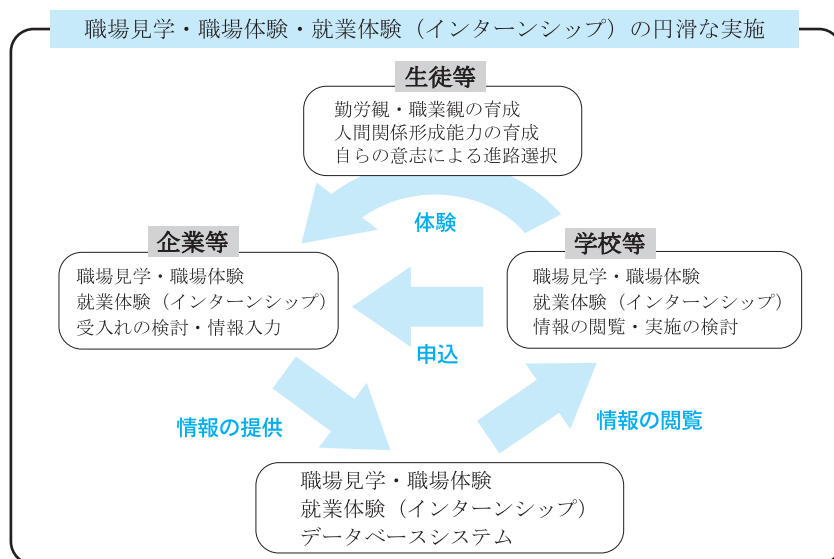
職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）を受け入れている本県企業等からの声

- 就業体験（インターンシップ）受入れのための人的余裕や資金的余裕がない中、将来徳島県に貢献できる人材を育成するために受け入れている
- 児童生徒の関心を高めるための事前指導をしっかりとしてほしい
- 目的意識を持って来てほしい
- 挨拶やマナー等の基本的な生活習慣をしっかりと指導してほしい
- 日々の教育活動の中で、忍耐力やチャレンジ精神を身に付けさせてほしい

このような企業等の声をしっかりと受け止めて、学校においても職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）における事前指導や事後指導の充実や、社会人・職業人として必要とされる挨拶やマナー、忍耐力等を身に付けさせる必要があります。

（２）本県における職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）を円滑に実施するための取組

「キャリア教育に関するアンケート」からは、職場体験・就業体験（インターンシップ）を実施する課題として「受入先の開拓や連絡」が挙げられており、学校と受入先企業等とのマッチングを行うために、次のように受入先企業等についての情報を提供し、学校が直接閲覧することができるデータベースシステムを構築しています。



学校で閲覧できる職場体験・職場見学・就業体験（インターンシップ）の情報を徳島県立総合教育センターのホームページに掲載しています。

「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」

URL <http://career-db.tokushima-ec.ed.jp/>